

一蓮



【第 178 号】
仙台立華読書会

読書会 (188 回)
平成 25 年
4 月 6 日

(参加者)
大場 勇哉 加藤 秀夫
河内 宏 熊谷 政直
岩崎 邦彦 菊田 信

『修身教授録』

第 2 2 講 「鍛錬道 (I)」

内容抄録・七参照

「代表的日本人」

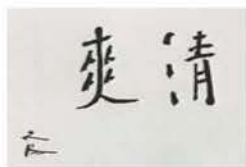
加藤 秀夫

吉田松陰が妹千代に宛てた手紙の一節を掲げて学びの資にしたいと思います。

一、神明を崇め尊ぶべし。大日本と申す国は神国と申し奉りて、神々様の開き給へる御国なり。然れば、この尊き御国に生まれたるものは貴きとなく、賤しきとなく、神々様をおるそかにしてはすまぬことなり。しかし世俗にも神信心という事する人もあれど、大てい心得違ふなり。神前に詣でて拍手を打ち、立身出世を祈りたり、長命富貴を祈りたりするは皆大間違ひなり。神と申す

ものは正直なる事を好み、また清浄なることを好み給ふ。それゆえ神を拝むには先づ己が心を正直にし、また己が体を清浄にして、外に何の心もなくただ謹み拝むべし。これを誠の

神信心と申すなり。その信心が積もりゆけば二六時中己が心が正直にて体が清浄になる、これを徳と申すなり。菅丞相の



森信三先生 揮毫

御歌に、「心だに誠の道に叶ひなば祈らずとても神や守らん」。また俗語に、「神は正直の頭に舍る」といひ、「信あれば徳あり」といふ、能々考へて見るべし。さて又佛と申すものは信仰するに及ばぬ事なり。されど強ち人にさからうて佛をそしるも入らぬ事なり。

二、親族を睦まじくする事大切なり。これも大ていの人の心得たる事なり。しかし従兄弟と申すもの、兄弟へさしつづいて親しむべき事なり。しかるに世の中従兄弟となれば甚だ疎きものおほし。能々考えて見るべし、吾が従兄弟と申すは父母の甥なり。祖父母よりみれば同じく孫なり。さすれば父母・祖父母の心になりて見れば、従兄弟をば決して疎くはならぬなり。しかしながら従兄弟の疎きと申すは、元来父母・祖父母の教えの行きとどかぬなり。子を教ふるもの心得べきなり。凡そ人の力と思ふものは兄弟に過ぎたるはなし。もし不幸にして兄弟なきものは従兄弟にしくはなし。従兄弟・兄弟は年も互いに似寄りて、もの学びして師匠の教えを受けし事おさらえ、事を相談しては父母の命をそむかぬごとく計らふ、皆他人にてとどく事にあらず。此の処を能く考ふべき事なり。

以上二つのことあげて見ました。敬神、親族睦まじくということ再考されたところで。
(千九八一—二二七
名取市美田園四一九—三)

「リハビリ・退院」

深堀 一三四

ICUに数日過ごし、起きられるようになると、すぐリハビリが始まる。最初はベッドから降りて立つことから、看護師の補助で行い、次第に歩く距離を長くしていく。初めは看護師に支えられたり、肩につかまったりして歩いた。

ICUに在室中、術後三日目に起床して、顔面にマスクをかけ、器械で強制的に呼吸する道具・呼吸器 (NITV) を使い呼吸させるリハビリをすると、治りが早くなるという看護師に強くすすめられ、十五分ほど練習してみたが、私の呼吸法と全然合わないことが分かり途中で止めた。せっかく病院で用意したものをと思うが、正しい腹式呼吸になっていないようだ。呼吸法は個人差もあり機械的方法は改善の余地がある。ただ体験として試してみた。自力で吸気をすばやく、吐気をゆっくりする呼吸法を器械はまだ工夫されていない。入院中は、日中も横になっているので、

夜はなかなか眠れない。その時は看護師に事情を話し、精神安定剤一錠をもらい服用した。試みに飲まないで休むと、翌日は寝不足でふらふらする。飲んだ方が体の回復に良いと指導され、入院中は無駄な抵抗をしないで飲むことにした。中毒になるかとも思いながら。しかし、退院後は全然飲まなくとも眠れたので一安心。やはり病院と家庭とは差がある。

また、入院中はどうしても運動不足なので、便秘がち、その時は下剤を処方してもらったが、これも自宅だと、だんだん改善できた。退院後は飲まないで済んだ。このように十種類近い薬の世話になったが、退院後はほとんど減り、今は心臓薬四種類、朝昼夕と三回に分け服用している。

入院中のリハビリは、専門の指導員が毎日十五分位、ベッドまで来てメニュー通り教えてくれた。立つことや足踏みなどから室内を歩き、次に廊下や階段の上下など行った。

退院前にバイク (自転車踏み) で有酸素運動を行い、判定の結果、秒速二〜三メー

トル、時速なら三、二キロメートル、脈拍九十七拍 (分)、胸や脚は「ややきつい」の手前を目安に歩き、四十分位行って良いとの判定でした。今はリハビリも数値化され、常に脈拍、血圧、酸素濃度など事前・事中・事後に測定された。

私のような外科の心臓手術の場合は、抜糸後はすぐ退院可能というので、一般病棟に移された直後、手術後一週間なのに主治医に退院して良いと伝えられ、一寸驚きあわてて家族に連絡した。しかし、リハビリは最初の段階、家で受け入れ準備ができないので、一週間ほど延ばしてもらった。

その間、我が家では、部屋・トイレ・風呂等の暖房、カーテン取付け、窓の二重サッシ工事などで大忙しであった。何しろ病院では、毎晩九時には病室の暖房は切られるが、しかし、パジャマ一枚でトイレにも行ける。病院は一日中暖房の生活が、帰宅すると、真冬の寒い部屋が待っている。温度差が激しい。これは心臓に悪い。ということ、お陰様で暖房完備の部屋で休み生活することが出来た。しかし、障子や戸の

隙間まで娘が目張りしてくれ、換気がしばらく出来ない状況であったので、暖かくなってきたので取り外した。

さて、一カ月半ぶりで自宅にめでたく生還したが、階段も満足に歩けない。体力がめっきり低下していた。すぐ風呂にも入れると思っていたが、数日はシャワーもびくびくもの。頭髮は娘に居間でシャンプーしてもらったが、あの臭いはなかなか取れない。天気の良い日中を選んで、風呂場でシャワーを浴び頭を洗った。臆病になりその後も風呂にはなかなか入れなかった。退院一週間後位、シャワーでシャンプーし、ようやく風呂に入ることが出来た。しかし三分で上がった。一度入れば、その後毎晩入れるようになり、時間も徐々に伸ばしていった。

真冬なので外に出る時は、完全武装で出る。暖い日を選んで庭の散歩から始め、家の前の道路と一日毎に距離を伸ばし、体力と自信をつけるように工夫した。たった五十キロの体重であるが重い。退院から二カ月半、体力回復にはまだまだである。暖い

日には二キロぐらい歩き、図書館などに出かけて、帰りはバスを使うなどして歩くことから始めている。私のような高齢者になると、若者のように早期回復は望めない。マア、一病息災で一生付き合う覚悟で生きたい。(平成二十五年四月十二日記)

(千九八五〇〇四二)

塩釜市玉川三丁目二一五

私の天敵 「セイダカアワダチソウ」

河内 宏

私の変な「くせ」の一つに、「いもづる式調べぐせ」というものがある。

以前に、「セイダカアワダチソウ駆除」について一蓮に書いた事がある。セイダカアワダチソウは、地下茎から拒否物質を出して、他の植物の成長を押しえ込んで、自らのみがはびこるのである。その後、この拒否物質は、何だろうと気になり、書棚から「原色牧野和漢薬草大図鑑」を取り出して調べてみた。私の想像した通り毒草は菓草

でもあった。

それにしても、この「セイダカアワダチソウ」は、つくづく、とぼけていて、それでいて恐ろしい植物だと思った。そのとぼけた点と恐ろしい点を明らかにするために、一部を抜粋することにする。

「セイダカアワダチソウ」和名「セイタカアキノキリンソウ(もつたいない)、英名TALL, GOLDENROD(ちぢにもつたいない)

分布 北米原産で、戦後日本に入ってきたといわれ、九州北部から全国に広がった多年草の帰化植物である。

薬効 不詳(研究者がいらないのかもしれない)。花と根に「フラボノイドのケルセチン」が含まれるので、「アキノキリンソウ」と同様気管支炎などに効くと思われる。

毒

畑の害草であり、ほうっておいた田や空き地を目ざとく見つけて繁茂する。それは、地下茎から「デヒドロマトリカリアエステル」という物質を出して他の植物の成長を阻むためである。

その他 アラバマ州の州花になっている。

福岡県では、炭鉱閉山時に繁茂したため「ヘイザンソウ」と呼ばれた。

この植物のとぼけている点は、花と茎は、いかにも、「キク」のように「ぶりっこ」している事である。アラバマ州の州花になっている。日本人とアメリカ人の美意識の違いとはいえ、また英名にゴールデンを冠されているのは、あまりに過大評価ではないだろうか。

次に恐ろしい点は、地下茎を引いての多年草という点にある。よくお役所仕事で、公園の草刈りをしているが、この「セイダカアワダチソウ」は痛くもかゆくもない。花や茎部分を切除しても、翌年見事によみがえる。短年の間に全国に広がった理由である。つまり、地下茎を根絶しない限り、何年でも生え続ける。そういえば福島県原発避難区域内は、この植物の王国になっており、胸が痛むのである。やがて「ゲンパツソウ」と呼ばれるであろう。除染も必要だが「セイダカアワダチソウ」の根絶も必要なのである。

私は、不審者とまちがわれても、この根絶を進めることにする。軍手をして、スコップで根を掘って、市民から役所に通報された事がある。

ここで、今回の紙面が尽きてしまった。次回以降には、私のやっかいな「くせ2」について書きたいと思う。

それは、「想像飛躍くせ」というものである。この毒草を調べていくと、「キンポウゲ一族」が突出しているのである。あの悪名高い「トリカブト」「フクジュソウ」「アネモネ」「ウマノアシガタ」など26種ある。ほぼ全て猛毒である。

何故「ウマノアシガタ」など普通に生えている草が毒を持ったのか、放牧されている牛や馬は何故食べないのか。

あの「オウム事件」を起こした人、昭和元年から20年までの戦争を起こした高級参謀、原発事故を防がなかったT電力の社長たち、この説明がつかない人達は、「キンポウゲ一族」のように毒を持ったのではないかと思うのである。

(千九八一〇九〇二) 仙台市青葉区北根
一三三一一一三二二

「さあ、これからだ」

大場 美枝

今日は真冬なみの寒さ、一気に冬に逆もどりの様。おまけに雪がチラついている。

明日から四月、各々の旅立ちの日である。我が家の家族も大きな節目の時を迎えた。

長男は、四月一日付けで東京から横浜支店へ異動する。息子の長女は大学一年生の十八歳。近隣在住の長女の連れ合いも四月一日付けで近隣の支店へ異動の辞令が出たそうだ。長女の娘は中学一年生の十二歳。それぞれに未来に向かって、新しい気持ちでスタートしてほしい。

私の方も、今年は具体的に動き出す時である。三月二十四日(日曜日)に地鎮祭を行った。家族揃って神主様のもとで頭を垂れ、工事安全と災難消除のお祓いをして頂いた。

基礎着工は四月中旬の予定である。昨年(平成二十四年)の三月末に工事請負契約をしたのだが、着工まで一年待ちの状況だった。現在、基礎工事に必要な生コンクリ

1トの需要が被災した港湾や道路などの復興工事で激増し、供給が追いつかず遅れ気味とのこと。住宅も多く被災し、職人さんも不足しており、一戸建ての住宅の着工は遅れ気味で厳しい状況にある。

この一年間、契約したハウスメーカーとの打合せ時には、常に妹と一緒にいた。妹は戸建ての経験者、頼りがいがあった。初めての私は、俄勉強で図書館から「家づくりの基礎知識」を借りたが、実際はイメージすることは、なかなか困難だった。何度か契約した会社のモデルハウス（実際の建物）に足を運び新しい暮らしをイメージした。

今、やっと地鎮祭までたどりつき、ほっとしている。あとは、現場の職人さんが気持ちよく仕事が順調にできるよう願うのみである。

任せると決めたメーカーさんを信頼し、新しい家の完成を楽しみに待ちたい。

(平成二十五年三月三十一日記)

(千九八五〇八六三 多賀城市東田中
一一一九一三一〇二)

「師と加藤虎之亮」

菊田 信

今回の学びは「鍛錬道」である。森信三先生は私たちにいろんな先人の名を教えて下さるが、「三宅少太郎」(テキストでは正太郎)、「加藤虎之亮」もそうである。三宅少太郎は西田幾多郎の師でもあるという。いずれも後世に名を残す人々であるが、そこには師弟関係の厳しさがあり、森先生はこれを鍛錬道としている。そしてこの鍛錬は、ひとかどの人間になるためにはどうしても必要不可欠であると森先生は語られる。

加藤虎之亮先生とは「儒教では当代一流といわれ、その実力とお人柄はつとに一部具眼の士の認めているところですよ」と述べている。具眼の士、すなわち「儒教界にこの人あり」という存在なのであろう。その加藤先生が恩師の三宅少太郎先生にきびしい指導を受けたことを森先生に話されたことを本誌七ページ抄録してある。この師弟関係は、現在大変希少になっているので、冊子『桃李』(昭和三十一年)からも採録する。

い。よく眠られる」と皮肉られる。

それから昨日手にした某書はいかに思うかと問はれる。要点は筆記してあるが、之を見れば十分に答へられぬ。已むを得ず結構の本ですなど答えると、結構であるから見ておけといったのである、どこが結構であるかと突っ込まれる。云々の処がよいと思ひますと答へると、それはあの本に限ったことではない。外の書にもある。某々の所は他の書では説き及んでいないのに、あの書には言及してゐた。その説の当否は暫く描き、他人の気付かぬ所に注意しただけでも価値があると教へられる。

苦しい目に逢わされるが、得難い教えを承けることは涙のこぼれる程嬉しかった。

又新しく書物を買はれると、必ず示される。先づ序を読むと必ずその一二について質問される。これは山であって一通りの解では済まされぬ「まだそんなことを申してをるのか」と叱られる。その後は私も大いに警戒して、山は何処であるか、それはいかに答ふべきかと慎重に考へる。すると奥様に、加藤が来てから何分になるかと尋ねられ、この短文を読むのに余り時間がかゝ

三宅眞軒先生の思ひ出

文学博士 加藤虎之亮

私が初めて三宅先生の教えを受けたのは、広島高師の予科の時である。教科書は孟子であったが、序説の「史記列伝曰」から始められた。

生徒を順番に呼び出して答へさす。先づ「史記とは何ぞ」と問われた。史記とは「司馬遷の作った歴史で云々」と答へた。すると「問いに合わぬ答をしてはいけない」、たゞ「書物の名である」と答えるのが正解である。次に「何が書いてあるか」と尋ねられ、「支那の歴史である」と答へさせ、「何時代の事実か」と問われて、そろそろ答へに窮する。更に進んで内容の吟味に入り、巻数から本紀・世家(史記内容)以下を明らかにし、然る後に撰者司馬遷に及んで、その年代関係の概略を述べさせ、注釈書の重要なものを挙げさせて始めて史記の解が終る。生徒は図書館に入って史記について色々調べなければ、散々な目に遭はされるから、已むを得ず勉強する。

かくして半頁位の短文が殆ど一学期かゝ

りすぎると責められる。

序文が済むと内容について何処が好いと攻められる。最後にその書物の長短につき精細に教へられる。

有り難い極みである。かゝる至れり尽せりの鞭撻を受けながら、何等為すことなき驚駭(才能の劣っていること)を悲しむのである。

先生は書を得る標準は一に四庫全書総目録提要(中国最大の解題目録)によられた。先生は提要に於て某書が良書であるといふことを知られると、之を獲るために全力を尽くされた。石川県立中学校や第四高等中学校で教鞭をとられたが、薄給であるから十分に書物を獲られぬ。五十歳にして広島高等師範学校に転ぜられ始めて樋口氏を娶られたが、その時夫人に申されたお言葉は、学者は衣食を節して書物を購入するといふが、そんなことで

は書物は手に入るものではない。自分は従来先づ書物を買ひ、その余で衣食して来たから、その覚悟で内を治めてもらひ度いとて僅かに七円だけを授けられた。然るにこれまでの債鬼が殺到したので、夫人は已む得ず晴れ着を売り、髪飾を売って急を救うたが、(八頁)

った。

私が第一志望であった地理歴史を断念して、国語漢文に転科したのは、先生の深遠なる学殖を景仰し、その教導に浴したいとの念願からであった。

私は毎年春夏冬の三休暇には京阪の書肆を歴訪の伴をした。これが仲々骨が折れた。先生は非常な近眼で行動が敏速にできなかった。先生は車に降車から車中のお世話がたい。汽車電車の昇降から車中のお世話が気にかゝる。先生は車に乗ると直ぐ眠られる。大阪に着く頃には十分に休養されてをられる。それ故、鹿田(大阪の書肆)につくと撥刺たる元気で書物を観られる。私は車中の気疲れで頭が濛々としてをる。そこへこの本を見て置くと十部位順次に出される。皆未見の書物であるから、その梗概を記録し、内容も少しは目を通さねばならず、随分忙しいことであった。

夜十時頃旅館に入る。先生は直ぐ休まれるが、私は入浴の習慣があるので、必ず風呂に入る。

朝は五時に必ずお目覚めになり、私を呼ばれる。一度で覚めぬと「若い者は羨まし

【抄録】『修身教授録』
第 2 講 「鍛錬道 (一)」

○三宅少太郎 (テキスト・正太郎)

この間、高津中学で加藤虎之亮という方のお話がありました。その際お聞きしたお話の中でぜひとも諸君に聞かせたいと思う話があります。

それは加藤先生が、その師匠に当たる三宅少太郎 (眞軒) という先生によって、いかにきびしく鍛錬せられたかという話であって、そのきびしさと猛烈さは、今日の学校教育では、とうてい想像もできない種類のものなんです。

さて三宅先生という方は、まったく独学で勉強された方でありまして、若狭中学校 (現・高校) の漢文の教師をしていられて頃、文部省から視察に来られた督学官に認められて、金沢四高 (現金沢大学) の教授となり、ついで北条時敬先生 (東北帝大総長・学習院長) に抜きんでられて、広島高等師範の教授として終始せられた方であります。

○漢文一筋

その若狭中学にいられた頃、ある日生徒に向かつて三宅先生がおっしゃるには「現在わが国で本当に漢文の分かる者は三人しかいない。その一人は某、もう一人は誰」と二人の名を言われながら、もう一人の名を言われぬのだそうです。そこで生徒の一人が「ではもう一人は誰ですか」と尋ねたところ「それは今君らの前にいるではないか」と言われたと言うことです。

さて、加藤博士は初め高等師範の歴史科に入られたそうですが、三宅先生に見出されて国漢 (国語漢文) に転じられたのだそうです。ところが、三宅先生の加藤博士を鍛えようとする意思は、実にきびしいものであって、始め加藤博士が随意科としてドイツ語をやっていたところ、「ああいうものはいらん。精力を割くことになるからやめろ」と言われるのだそうです。加藤博士がなかなかやめられないでいると、三宅先生はドイツ語の先生のところへ行かれて「加藤のドイツ語はやめることに致しましたから——」と言われて、とうとうご自分でやめさせてしまわれたのだそうです。

○弟子を鍛える

三宅先生の授業は「加藤さえいればよれでよい」といった調子でぐんぐんやられたらしいのです。そして卒業後は高等師範の研究科に残られたところ、昼は学校の授業があり、夜は一週間うち四晩まで、先生のところへ習いに行かねばならなかったそうです。

ところが、その三宅先生の授業たるやまた猛烈を極めたもので、午後六時に始まって夜の十二時までといいながら実際には十二時に終わったことはなく、どうしてもまづ午前の一時近くにならぬとやめられない。しかもその間まったく一人対一人で油を絞られるのですから、普通の人間だったら、とうていやりきれないわけです。つまり正味六時間ないし七時間の間、天下の碩学に鍛えられるわけでありまして。しかもその始めがたいへんで、必ず午後六時までに行かないとご機嫌が悪いのだそうです。そしてたとえ五分でも遅ければ、もう遅刻扱いにされて、一々学校に報告されるんだそうです。

(六頁より) 米屋だけが残ったので、毎日督促する。之を先生に訴えんと、先生は自分の処へ来させよ申された。当時のお宅は入り口から台所まで土廊下を通じ、座敷、茶の間、台所と続いてみたが、座敷は床の間に伊藤東涯の小幅が掛かり、その前に古机一脚、茶の間に夫人の箆笥一竿、台所に鍋釜がある外には一物もなく、いはゆる環堵肅然 (狭い家が貧しくて寂しいさま) たる有様であった。米屋が八重の催促をするのも無理はない。然るに二階の先生の書齋に上がって見ると、八畳二間と縁側とが書物で充填され、たゞ先生の膝を容れる処だけが空いてゐる。米屋は上り段の処へ坐し、時候の挨拶をしただけで匆々に退去した。夫人がいかにご挨拶なられたのかと尋ねられると、米代のことなど何も申さずに逃げるようにして帰った。最早催促には来ぬから安心せよ。彼は家に長物なきを見、夜逃げでもされてはと思つて督促星火 (事の急なこと) よりも急であつたが、沢山の書物を見て安心したにちがいないと申されたが、果たしてその後は催促しなかつた。

当時学校では式日には必ずフロックコート (礼服) を着用することになつてゐたので、夫人の懇請によつて、元板玉篇 (中国辞書) 外

○漢文一筋

その代償として六十五円を酬いた所が、先生は直ちに六十円を投じて山草堂集 (中国古典) を購はれ、夫人が金を尋ねられると、たゞ山草堂集を示された。夫人が式日をいかがなされるかと尋ねられると、病氣欠席だと答へられた。夫人は已むを得ず北条校長夫人に借金して之を調べ、毎月二円づつ返済したのであつた。

二点を尊経閣 (加賀藩前田家文庫) に献じてその資に充てることにした。前田家ではその代償として六十五円を酬いた所が、先生は直ちに六十円を投じて山草堂集 (中国古典) を購はれ、夫人が金を尋ねられると、たゞ山草堂集を示された。夫人が式日をいかがなされるかと尋ねられると、病氣欠席だと答へられた。夫人は已むを得ず北条校長夫人に借金して之を調べ、毎月二円づつ返済したのであつた。

二点を尊経閣 (加賀藩前田家文庫) に献じてその資に充てることにした。前田家ではその代償として六十五円を酬いた所が、先生は直ちに六十円を投じて山草堂集 (中国古典) を購はれ、夫人が金を尋ねられると、たゞ山草堂集を示された。夫人が式日をいかがなされるかと尋ねられると、病氣欠席だと答へられた。夫人は已むを得ず北条校長夫人に借金して之を調べ、毎月二円づつ返済したのであつた。

実践人 仙台立華読書会

(設立 平成九年四月六日)

- 趣 旨 森信三先生の教えを学び実践する
- 開催日 第一または第二日曜日
午前九時三十分より正午まで
- 会 場 多賀城市文化センター
〒985-10873
多賀城市中央二丁目二七一
- 電 話 022-368-0131
- テキスト 森信三先生著書を主とする
当分は『修身教授録』(致知出版)
- 会 費 一、〇〇〇円 (運営費)

「一蓮」第一七八号

平成二十五年六月九日発行

〒983-0013

仙台市宮城野区中野字大貝沼二〇一七

立華幼稚園内 菊田 信

電話 (幼稚園HP掲載)

022-259-0526 (幼稚園)

022-258-2689 (自宅)

E-mail ichiren@cream.plala.or.jp

◎七月読書会

とき 七月五日 (土) 午前九時半

ところ 多賀城市活動サポートセンター